
上州 平井城 乳母神社の伝説

山之口 博道

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

上州 平井城 乳母神社の伝説

【コード】

N8650K

【作者名】

山之口 博道

【あらすじ】

上州、平井城につたわる、若君を最後まで守ろうとしたけなげな乳母の伝承譚です。

群馬県藤岡市平井、ここにかつて、西暦で言うと1500年代に中世の「関東の都」とまでいわれた名城があった。

平井城である。ここは関東管領山内上杉氏の、本城であり、関東管領の首都であったのである。

最盛期には5万人とも、10万人とも言われる城下町が連なり商業も栄えて、諸国の商人や文人、墨客、旅の連歌師などの往来も絶えなかったといわれている。

その賑わいは1552年の平井落城まで約100年の繁栄を誇ったと言われている。

城下町は現在の、藤岡市平井から高崎市山名・根古谷地区に達する広大な地帯であるがそこは現在、

農村地帯でありこれと言って何の遺構も存在しない。

今は廃墟と化した平井城跡にたつと、一面に、草原が連なり、農家も点在するうらさびた寒村風景が続くばかり。眼下には鮎川の清冽な流れが流れているばかり、。

10万人の大都会が今から500年前にこんな寒村にあったなんて夢のまた夢である。想像だにできない、裏さびた今は農村風景である。

さてそんな中世に栄華を極めた平井城にも、新興勢力の小田原北条氏が刻一刻とせまっていた。

武州川越城で北条氏と一戦を交えた、いわゆる歴史書に言うところの

天文14年【1546年）「川越夜戦」で大敗した上杉氏はそれ以来、平井に撤退し蟄居状態、もはや没落の影はいかんともしがたい状況であった。

そして機は熟したと見た、

北条氏康は天文21年【1552年）3月、いよいよ、平井城に総攻撃を仕かけたのである。

そのころ多くの上杉方の家臣たちは没落の影濃い、上杉を見限って既に北条方に、寝返っており、戦の触れに対しても平井城に集まったのはわずかに兵500人とも言われている。

それを見た城主、上杉憲政は、もはやこれまでと59人の兵とともに越後の長尾景虎を頼って夜陰に乗じて平井を後にしたのである。

この上杉憲政は、歴史書によれば臆病な愚将と言っことになっていくがさて実像はどうなのだろうか？

平井脱出の際、憲政すぐ戻るからと言って妻子は城に残したというのである。

逃げ延びる際の足手まといになると思ったのであろうか？

しかし、越後の長尾景虎（後の上杉謙信は）平井救援の兵をすぐには派遣する気配はなかった。

残された城兵は良く戦ったが多勢に無勢、越後からの援軍もなく、勝てるわけもなくあえなく落城してしまったのである。

そして、城に残った妻子は、夜陰に乗じて、近くの民家に身を潜め

たのである。

長男、竜若丸は、家臣、目加田信介とともに、民家に潜み。

次男、鶴若丸は幼きにより乳母とともに、支城のある、吉井町方面へ落ち延びていった。

しかし、家臣、目加田真介は、なんと、北条軍の陣地に内通し出頭して、竜若丸を北条方に引き渡すから、どうか自分の命はたすけてくれと嘆願したのである。

直ちに、小田原に護送された竜若丸は即刻、斬首、そして主君を裏切ったとして目加田真介は助命どころか、

見せしめとして貼り付け、市中引き回しの、死刑に処せられてしまったのである。

さて乳母と逃げた次男、鶴若丸の運命はどうなったろうか？。

乳母とともに西平井まで落ち延びたところで北条の追つての兵が迫り、乳母と若君はあわてて、小さな橋の下に身を潜めたという。

しかし、あえなく、見つかり、即刻、殺されてしまったという。けなげな乳母は最後まで若君を守ろうと女ながらも奮戦したという。

その後村人たちは乳母と若君のなきがらをその橋近くに手厚く葬ったと言う。

後世、この最後まで主君に忠節を尽くした乳母を称えて、

「上杉城主幾興亡 平井の繁華夢一場 乳母の忠魂地蔵に留まり

千秋万古 人をして傷ましむ」

と、平井城跡に、立てられた石碑にも顕彰されているほどである。

同じ死とはいえ、家臣、目加田真介の裏切りによって差し出され首をはねられた長男、竜若丸。

それに比べ、権謀術数、渦巻く戦国時代とはいえ、主君に最後まで忠節を尽くしたけなげな乳母の思いが
鶴若丸の死をいっそう哀切きわまるものとしたのであろう。

しかし今、この乳母の名前も伝わっていないのである。

無名の乳母の忠節と高名な家臣、目加田真介の裏切り。その対比は、戦国の世の、親子さえ裏切りあうという、下剋上に咲いたけなげな一輪の野の花のように、
乳母の忠節の思いが今にまで、語り伝えられているのは、
人々の、共感を呼ぶからなのであろうか。

今、藤岡市西平井の、吉井に通ずる小道をたどると、路傍にひっそりと小さな祠が立っている。

それが「乳母神社」である。

乳母の遺徳を称えて立てられた、分霊堂である。

そのこの記念碑にはこんな揮毫が掘り込まれている。

「若君と 共に野末に 散り果てし 乳母の御魂は 尊うとかりけり」

遠い遠い昔の、戦国乱世の世の、平井城落城にまつわる、乳母と若君の哀しい歴史である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8650k/>

上州 平井城 乳母神社の伝説

2010年10月22日00時34分発行